平成19年3月15日

各　位

会　社　名　不二製油株式会社
代表者名　取締役社長　浅原和人
（コード番号　2607　東証・大証　第1部）
問合せ先　IR室長　柳井哲郎
（TEL.　03－5418－1044）

特別利益、特別損失の発生、繰延税金資産の取崩し及び通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、下記の特別利益、特別損失の発生、繰延税金資産の取崩しを行うこととなりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成18年11月9日に公表しました平成19年3月期の通期（平成18年4月1日～平成19年3月31日）の業績予想を修正いたします。

記

1. 特別利益の発生及びその内容

当社は、資産の効率化を図るため、当社が保有する投資有価証券の一部について売却し、売却益約15億円を平成19年3月期（連結・個別）に特別利益として計上する予定であります。

2. 特別損失の発生及びその内容

当社の大豆たん白事業において、保有する大豆たん白食品製造設備について、企業間競争の激化などの影響により利益計画が当初の予定を下回っていることをふまえ、財務の健全性の観点から、将来キャッシュフローによる回収が困難であると判断される金額について「固定資産の減損に係る会計基準」を適用し、約12億円の減損損失を平成19年3月期（連結・個別）に特別損失として計上する予定であります。

3. 繰延税金資産の取崩しの発生及びその内容

当社が計上しておりました関係会社株式評価損に係る繰延税金資産の回収可能性につき慎重に検討いたしました結果、米国油脂子会社の業績が回復したことなどから、税務上の損金算入時期の特定が不能な将来減算一時差異に係る繰延税金資産の取崩しをいたします。この結果、平成19年3月期個別決算にて法人税等調整額として約25億円を計上する予定であります。

4. 平成19年3月期通期業績予想の修正

（1）通期（連結）業績予想の修正（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	185,300	8,400	7,400	3,850
今回修正予想(B)	183,800	7,100	6,200	3,000
増減額（B-A）	△ 1,500	△ 1,300	△ 1,200	△ 850
増減率（%）	△ 0.8	△ 15.5	△ 16.2	△ 22.1
（ご参考） 前期実績（平成18年3月期）	175,172	9,277	8,952	4,334

修正の理由

売上高については、個別、国内外グループ会社において、主に、大豆たん白部門の市場停滞による需要の減少などから前回予想を下回る見込みであります。

営業利益、経常利益については、個別、国内外グループ会社の主に大豆たん白部門の売上高減少による減益及び当初予定した原価上昇分の販売価格改定が計画通り進まず、前回予想を下回る見込みであります。

当期純利益については、上記のとおり特別利益として投資有価証券売却益15億円、特別損失として減損損失12億円を計上いたしますが、経常損益が前回予想を下回る見込みであることから前回予想を下回る見込みであります。

(2)通期(個別)業績予想の修正(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	113,000	6,500	7,000	4,100
今回修正予想(B)	110,000	5,500	6,100	1,100
増減額(B-A)	△ 3,000	△ 1,000	△ 900	△ 3,000
増減率(%)	△ 2.7	△ 15.4	△ 12.9	△ 73.2
(ご参考) 前期実績(平成18年3月期)	107,757	7,954	8,460	5,060

修正の理由

売上高については、特に大豆たん白部門における市場停滞による需要の減少などから前回予想を下回る見込みであります。

営業利益、経常利益については、売上高の減少に加え当初予定した原価上昇分の販売価格改定が 計画通り進まず、前回予想を下回る見込みであります。

当期純利益については、上記のとおり特別利益として株式売却益15億円、特別損失として減損損失12億円を計上いたしますが、経常損益が前回予想を下回る見込みであること及び過去に株式評価損を計上した子会社が利益体質に転換したことで、当社の税務上の損金算入時期を特定出来ないことから、繰延税金資産を取崩し法人税等調整額約25億円を計上するため、前回予想を下回る見込みであります。

尚、平成19年3月期の期末配当予想(1株当たり7.50円、年間合計15円)についての変更はありません。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって本資料の見通しとは異なる結果となる可能性があります。

以上